

## 海外在留邦人の医療支援ネットワーク「ジャムズネット」

### 世界的有事の際に有用なグローバルネットワークを目指す

海外在留邦人は年々増加しており、なかでもニューヨークは最も多い約6万人、実際には10万人の日本人が在住するとされている。在留邦人を医療面から支援するNPOなどの団体はニューヨーク周辺にも多数存在するが、相互連携がなされておらず、個々の活動では継続も困難という状況であった。在ニューヨーク日本国総領事館（現・在タンザニア日本国大使館）・外務省医務官の仲本光一氏は、そうした医療系邦人支援グループ同士の情報交換、相互連携を目的としたネットワークを構築するため、2006年、コロンビア大学内科教授/前・米国日本人医師会会長の本間俊一氏を代表とする「[邦人医療支援ネットワーク Japanese Medical Support Network \(ジャムズネット\)](#)」の設立を支援した。今年（2009年）は「ジャムズネット東京」も発足。ネットワーク設立の背景や活動、課題などについて、仲本氏に聞いた。



仲本 光一 氏

#### 米国同時多発テロで邦人支援団体の相互支援の必要性を認識

ジャムズネット設立の背景として、世界の中で最も在留邦人数が多いニューヨークでさえ、外国人に占める日本人の割合は少なく、2001年9月11日の米国同時多発テロ事件では在留邦人はマイノリティ（災害弱者）であることが露呈した。仲本氏は「有事の際の医療支援ボランティアの必要性、各医療系邦人支援団体の相互連携の必要性を認識した」と強調する。

さらに、米国でも在留邦人の高齢化が進んでおり、医療・介護・啓蒙などの面で支援が求められている状況があった。

一方、同氏のこれまでの海外赴任の経験から「身体的疾患を診療できる優秀な医師はどここの国にも存在する。しかし、心因的な要素が絡んでくると、たとえ言葉が通じて、日本人の慣習や国民性など日本の文化的背景がわからないと診断できないことがある。海外は、途上国に限らず先進国でもメンタルヘルスに関しては過疎地域だと言われている」と話す。ただ、ニューヨークに関しては唯一の例外であり、多数のメンタルヘルス系の専門家が活動していたが、団体間の相互連携が問題であったという。

#### 団体の継続には大使館・総領事館の理解と積極的な支援が必要

ジャムズネットは、在ニューヨーク日本国総領事館領事部・医務班が側面支援を行っている。米国日本人医師会、現地で邦人あるいは米国人を対象に長年事業を行っている医療系の専門家の団体、患者・家族・邦人支援のNPOなど、現在、24団体（オブザーバー含む）が参加している。

ジャムズネットの活動は、「サクラヘルスフェア」、「Japan Day」、「シニアウィーク」などのイベントを通じた啓蒙活動や健康相談会、育児支援から高齢者支援まで担う多彩な各団体との連携などで、ジャムズネットは今やニューヨーク在留邦人の健康を支える要となっている。



昨年のJapan Dayでジャムズネットは血圧や体重・体脂肪測定(左)、ストレスチェックなどを行った

仲本氏は「医療支援を目的とした自助団体は世界各地で設立されているが、中心メンバーの帰国や資金面の問題で継続が難しいことが課題となっている。特に、継続性は世界中の自助団体共通の悩みである。そうしたなか、ジャムズネットがうまく機能できたのは、大使館・総領事館の理解が得られ、積極的な支援を受けたこと、専門家の団体に限定せず、広くさまざまな民間団体との連携を強化したことによると考えている。ジャムズネットは邦人のための医療支援組織として、官民の協力で実現した一つのモデルと言える」と話す。

#### リスク／クライシスコミュニケーションは双方向性の情報交換が重要

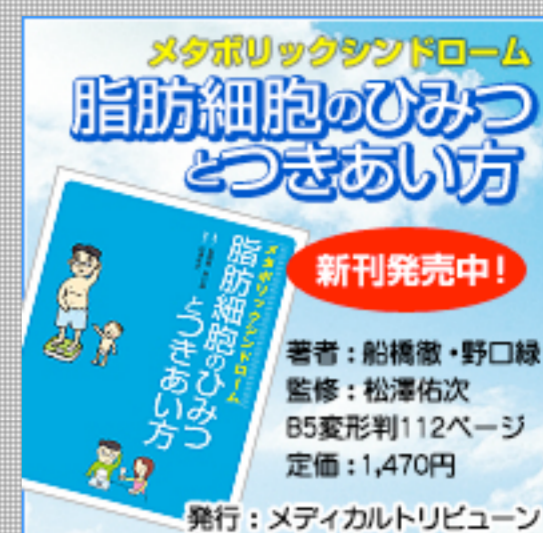
ジャムズネットが有事の際に機能した事例として、新型インフルエンザの世界的流行時の対応が挙げられる。ジャムズネットには、ニューヨーク市保健局からの新型インフルエンザ発生情報が、4月24日にメーリングリストを通じて伝達され、以後、参加団体を通じて在留邦人に対し、早い段階で正確な情報を伝達することができた。また同時に、市民側の医療ボランティアから世界各地の状況・問題点についての情報が収集され、帰国者・旅行者にとって真に必要な情報（各国検疫情報など）が当局側に伝達され、実際の公開が実現した。このように、リスク／クライシスコミュニケーションは双方向性の情報交換が鍵であるという。

#### 「ジャムズネット東京」設立、今後は国内の医療支援も

今年発足した「[ジャムズネット東京](#)」は、ニューヨークのジャムズネットでの活動経験者を中心に、海外在留邦人および海外から帰国した日本人を医療面で支援するために設立された。ニューヨークでのネットワークに加え、日本国内の医療系団体と連携を図っている。今後、国内向けにも情報発信、医療相談を行っていきたいという。

最後に、ジャムズネットの目指す方向として、仲本氏は「ニューヨークと東京を拠点として、世界各地の医療系団体や90カ国を超える地域に勤務している外務省医務官と連携することにより、全世界にネットワークを拡大していければ、世界的な有事の際の情報伝達手段として有効に機能するだろう」と期待している。

(医学ライター・宇佐美 陽子)



#### 【関連記事】

⇒ [シリーズ／『米国で活躍する日本人医師たち』No.4／日米、世界の医学界で活躍し米国日系社会に貢献](#) [2009年7月16日]